



# 宝松

編集 大分県玖珠郡九重町松木宝  
 発行者 宝八幡宮 宮司 甲斐素純  
 (☎0973-76-3254)  
 発行日 令和 4年 4月 吉日

## 拝殿大注連縄

今年も丸塚の有志により、12月20日・21日の両日、大注連縄が新調されました。指導者は佐藤三代志氏で、佐藤勝・時夫兄弟も加勢してくれました。それに麻生征夫氏・寺元新八氏と、九重町地域おこし協力隊の小笠原有佳子氏、豊田大志朗氏も加わり、大いに助かりました。そして、総代会長の藤原三治氏がユニックで吊り下げ、設置して下さいました。

表面をていねいにコモで巻き、立派に仕上がりました。誠にありがとうございました。

## ＝2日＝人知らずして慍みず

人知らずして慍みず、亦君子ならずや。

(学而第一)

【訳】「人が自分の存在を認めてくれなくても、怨むことなく、自らなすべきことを努めてやまない人は、なんと立派な人物ではないか」

\*孔子は当時の隠者の生き方を敬遠し、どこまでも世に立って人と共に歩もうとされた方であった。従って世に知られることを望んだわけである。ただ志が高いだけに思いに任せないことが多かったが、意に介せず、生涯怠ることなく遂に万世の師となった。

(『論語一日一言』より)



## 門松立て

12月に、恒例の門松が立派に石鳥居の前に設置されました。ご多忙の中を総代会長藤原三治氏を始め総代の穴井正三郎氏・松木廣行氏・乙津勝氏と松木憲二氏、それに月次会より進武一郎氏・友松哲郎氏・武石保郎氏・寺元新八氏・安達道康氏が特別参加し、半日で完成しました。

これで正月初詣の皆様を、気持ちよくお迎え出来ます。お疲れさまでした。(12月23日、記)



(『月刊益軒さん』2022. 2月号より)

令和3年の大分県功労者表彰式が、11月3日大分市内のホテルであった。地方自治や農林水産・教育スポーツなど十二分野で貢献のあった69人・13団体が表彰された。

宮司は、はからずも学術文化振興分野に選ばれ、出席しました。式では、農林水産部門の農村女性リーダーとして表彰された鷲津洋子氏ご夫婦とも一緒に、記念写真を撮りました。

郷土の歴史と文化財を研究し続け、駄文を発表してきましたが、古稀の年に認められ今後の精進の糧ともなりました。

なお受賞に当たっては、衆議院議員の岩屋毅氏・九重町長日野康志氏・八鹿酒造(株)社長麻生益直氏・宇佐神宮宮司小野崇之氏からは、懇ろなご祝辞を頂戴し、恐縮いたしています。



丸塚の門松 (大鳥居前)

(鷲津氏ご夫婦と)

「懇ろな知事の式辞や菊香る」

日々の行いの積み重ねが結果に反映される  
 「花が咲いたのを見て、今年ひとりで咲いたと思ってはいけない。過ぎた日にまかれた種が、今日咲いた花の因いんになっていて、今年ひとりでも知れない。空海の漢詩の一節です。花が咲くのは、種がまかれたという過去があつて生じたこと。去年あなたがまいた種かもしれないし、遠い昔におばあちゃんがまいた種の子孫なのかもしれない。鳥が落としたりフンの中にあつた種かもしれない。いずれにしても、花はただ自分の力だけでその日に咲いたのではないのです。つまりこの詩は、仏教の基本にある「因いんと縁えん」のことを謳うたったもの。ものごとくも心の働きもすべて、因いん(直接の原因)と縁えん(間接的な原因となるさまざまな条件)によって果くわ(結果)として生じたものです。花が咲くのは、種がまかれるという「因いん」と、日当たりや水分を得て、虫にも食われず成長できた「縁えん」によって生じた結果で、実ったものはまさに因縁によってできた「因果いんがうほ」なのです。「因果応報」というように、すべてはつながっています。よい結果も悪い結果も、すべては日々の行いの因縁によって生じることを心しておきましょう。」

今日花が咲くのは  
 過去のおかげと知る

道いうことなれば此この華はな今年ひな開ひらくと、  
 まさに知るべし往歳おうさいしゆいん種くわ因いんを下くだせることことを。  
 『過因かゐんの詩』より『拾遺しゅうい雑集』

＝10日＝苦の中へはいる  
 動物にはそういう苦しみの世界はないわけだ。人間はそれを苦しみと感ずるからね。そこが困るんだ。(中略)  
 困るときには、ただ困るだけでなく、なんとかするんだね。あとは天にまかす、「人事を尽くして天命を待つ」だね。  
 天命を待つというあれを、あきらめるといつてはいけない。あきらめでは一種の現実逃避になってしまうのだ。  
 そうじゃないのだ、その中へはいつてしまふんだ。  
 『坐談集』 二巻

(『鈴木大拙一日一言』  
 蓮沼正應編 致知出版社より)